

(一社)大学女性協会奈良支部主催 オンライン講演会 (2021年1月18日開催)
2020年度大学女性協会国内奨学生のお話を聴く会
上代日本語の文字表記～上代特殊仮名遣いを中心に～
アンケート結果

参加者(講師含む) 34名 アンケート回答者 14名

1. 年代をお伺いします。

60代 3名 70代 6名 80歳以上 5名

2. お住まいはどちらですか。都道府県名をお書きください。

京都府 3名 奈良県 6名 近畿以外 5名

3. 大学女性協会会員ですか。

はい 9名 いいえ 5名

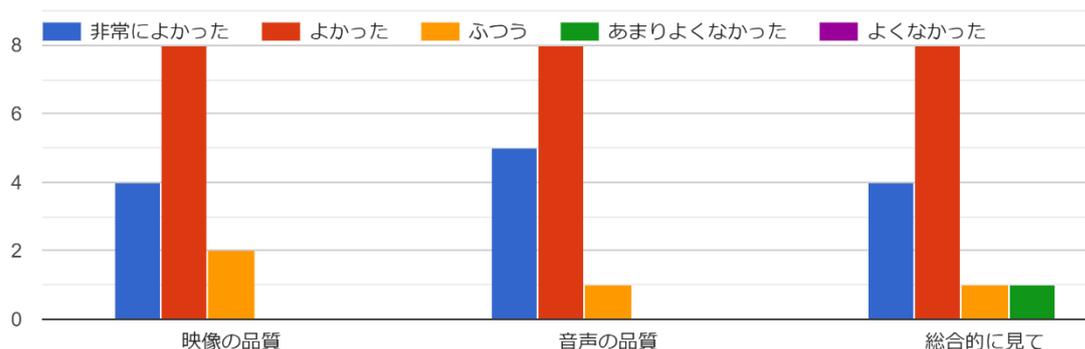
4. スピーチの内容について

とても興味深かった 12名 やや興味深かった 2名

5. 内容の難易度はいかがでしたか。

やや難しかった 7名 ふつう 3名 やや易しかった 2名 とても易しかった 2名

6. ズームによる参加についてお伺いします。



7. スピーチを聴いての感想や講師へのメッセージなどがあればお書きください。

*万葉集は音を漢字に当てはめた表記になっているとききかじっていました。また渡来人の書き手が多かった時代とも聞きかじっていましたので、万葉集時代は表音文字として漢字が使われたと記憶していました。発音はどうしても時代とともに変化してゆき、俗語化によりさらに発音や文法、表記法が変化するので、そのような変化を膨大な資料を使って研究されているのだということがわかりました。AIやビッグデータを駆使して研究をすすめられることを期待しております。

*礼儀正しく、てきぱきと返答されている姿が、大変好印象でした。万葉集などは研究されつくしている分野かと思いますが、新鮮な発想で新しい成果を生み出されますよう願っています。研究者の道は狭く、生き残っていくのは大変とは思いますが、悔いなきよう進んでください。

*私は1979年頃奈良から横浜へ東下りをしたのですが、日本文化は奈良に根源があると思っていましたのに横浜も結構例えば電話?新聞?要するに近代文明、文化面も含めて寄与しているのを実感しています。横穴住居跡もあります。そこで万葉集なのですが、万葉集の舞台は奈良と思いついていたらなんと武蔵の国の人々の詠んだものも入っています。詠み人知らずも多いし、4500首はどのように集められ編纂されたのでしょうか?まず、方言はなかったか?どのように

保存され伝えられたか？紙も字もなかったと思うのに疑問です。大伴家持と協力者が当時考えられる共通語で編纂したのでしょうか？「箸」も「橋」も「端」も「はし」なのに発音が違っていたのでしょうか？私は昭和一桁生まれで小学校の先生に本当は「図画」を「づぐわ」、「井戸」を「ういど」、「ゐゑを」を「ういうえうお」と発音するのだと習いました。軽部様のご研究が、外国の文字である漢字を駆使して「かな、カナ」を生み出し、日本を表現している、日本人の神髄(?)に迫るのではないかと感動を覚えています。

*『萬葉の花』一 小辞典 西川廉行 著(2004年発行 雄飛企画)

タチバナ 聖武天皇が橘氏を祝って詠まれた御歌として 中村美奈子さんの絵とともに紹介されています。お話の中の(何とか)タチバナは載っていませんでしたが上代を近くに感じる助けとなる研究成果の発表をありがとうございました。IT、AIなど 先端技術を駆使した研究環境が羨ましいです。

*万葉集にしても木簡にしても膨大な資料を分析されたことに敬意を表します。ある法則を見出すまでには、能力と根気が必要ですね。更なる研究の進展をお祈りいたします。

*とても落ち着いた発表態度で分かりやすい話し方でした。質問への答え方も的確で、よく勉強されているのがうかがえました。お話を聞いていて、古代の人達の持っていた言葉の音に興味を持つようになりました。さらに万葉仮名と、平仮名・カタカナの誕生との関係も面白そうだなと思うようになりました。

*万葉仮名の基礎知識が乏しいのですが 大変分かり易く話され、良く理解出来ました。

*私は「特殊仮名遣い」という言葉を耳にするのも初めてでしたので、お話を理解するのも難しいでしたが、よく考えれば、平安時代以前に詠まれた歌が「万葉集」として漢字表記で残っているのですから、「上代の日本語の文字表記」は大変意義のある研究ですね。

670年に作成された「庚午年籍」は、663年の白村江敗戦以降に日本に帰化した百済人が日本語の音を聴き取って漢字で表記したとの説もあり、甲類乙類の区分も興味深いお話です。日本人のルーツを探る「言語史」を学ぶ良い機会をいただき有難うございました。今後もお活躍をお祈りいたします。

*素敵なお話ありがとうございました。今回の内容については(リケジョなので)全く知らなかったのですが 趣味の書道では変体仮名を使います。作品の仕上がり(見た目)でどの漢字を使うのかを決めるのですが 上代には言葉によってきちんと使い分けがあったのですね。当時、知識教養のある人たちは、使い分けがしっかり出来ていて(私のような?)下々のものはあまり出来ていなかったということでしょうか？木簡調査からいろいろ解ると面白いですね。これからも研究頑張って下さい。

*一つの音に対して、いくつもの万葉仮名がある話は、半世紀以上昔の私の高校生時代に古文の先生からも聞かされていました。

この50年で、何か新しい解析結果があるのか、興味がありました。

「今は同じに発音される音でも昔は違って、その違って発音されていた音にそれぞれ対応して別の漢字をあてたのではないか。」とは、誰でも思いつく理論で、ある程度事実だとは思いますが、そのころの人たちが共通する50音表を持っていたわけではなく、統一された教育を受けていたわけでもなく、発音上の共通語がなかった時代に、メモ的な木簡に、思いつく同じ音の漢字を使ってしまったとしても、不思議はない話です。

記紀に使われている万葉仮名の種類が少ないのは、宮廷の記録係の役人たち（限られた人たち）が書いていたためだろう、とは推測できますが、万葉集にある庶民の歌をどうやって収集したのか、と考えると、収集した下っ端役人の身分や個性で使っていた万葉仮名も違うのではないか、などという疑問も湧いてきます。

身分の高い人たちの歌は、宮廷の書家たちが書いたものだろうから、使われている万葉仮名の種類は少ないに違いない、というようなことを質問したかったのですが、時間切れ。

久しぶりにわくわくする話題だったので、あの後、「万葉集の歌はどうやって収集したのか」とググったら、こんなページが見つかりました。 <https://okwave.jp/qa/q9193690.html>
万葉仮名に地方性がある、とあり、これは目からうろこの視点でした。

万葉仮名のかなりな好い加減さを知りたいと、「万葉仮名」とググったら <http://www1.kcn.ne.jp/~uehiro08/contents/kana/lran.htm> がヒット。単なる知りたがり屋には、こんなネットに転がっているもので好奇心は満足されますが、研究テーマとしての万葉仮名は、新しい視点を見つけるのは、大変なことと思います。

良い研究をなさってご活躍されることを期待しています。

*興味深く拝聴しました。お話の進め方も判り易く良かったです。万葉集等の編纂物と木簡等から古代のことば遣いの研究をこれからも深められて、今迄不明だったことを解明されることを期待しています。

私個人としては、好きな万葉集の歌は数首ありますが、万葉仮名にはまったく興味がありませんでした。今後は両方合わせもって詠もうと思いました。

当日の資料に、犬養孝先生のお名前が異なっていたように記憶します。

益々のご研究を期待します。

*私は上代特殊仮名遣いは決まった法則のもとに使われていると思っていたのですが、当時はまだ日本語表記の揺籃期、万葉集と木簡、仏足石歌で色々な表記の仕方があったのですね。それぞれの記録の目的、特性による違いなど分かりやすいまとめ方に、ど素人である私などにもとても理解しやすく興味ぶかく聴くことができました。何度か見たことがある薬師寺の仏足石歌や木簡なども、今回の講演を生かして、もう少し深い観点から眺めてみたいと思います。これからの益々のご活躍を楽しみにしております。

8. 大学女性協会奈良支部で取り上げてほしい企画やご意見などあればお書きください。

*古都奈良らしい企画を期待しています。オンライン開催ですと全国から参加できますので、今後もオンラインあるいはハイブリッド開催を要望します。

*最近の正倉院御物の話題

*このような若手研究者の発表を今後とも期待します

*JAUW の抱えている諸問題を解説していただけるとありがたいです。

*今回、講話のタイトルのみで内容が想像つかないなか、聴講を申し込みましたが、できれば、事前に簡単なレジュメか資料をメールに添付して頂ければ、予習ができたかと思えます。それらを手元で見ながら聴講できれば、もう少し理解し易かったかもわかりません。